

助成事業実施報告書

団体名 認定 NPO 法人四つ葉のクローバー シェアハウス夢コート

代表者・役職名 氏名 理事長 杉山真知子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

シェアハウス夢コート 安心・安全居場所作り事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

当ホームは2013年に社会的養護の子を受け入れるシェアハウスとして設立。2016年に県より認可され自立援助ホームとなる。社会的養護の若者たちの居場所づくりや餃子屋「竹の子」を運営するなど就労支援に力を入れている。定員は男女9名。会員数は団体を含め正会員が約75名、賛助会員が約89名となっている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

当ホームでは夜間は入居者のみになる。これは宿直を置かないことで「大人から信頼されている」「夜間は自分たちが責任をもって過ごさなければならない」という子供たちの意識向上を目的とし、社会に出た時に必要な自立の一步として考えている。緊急時に5分で駆けつけるスタッフを配置しているが3年間で1度洗濯機の水漏れで呼び出しがあったのみである。しかし平成29年度より収容数を8名から9名に増やすことによりニーズの低年齢化及び家庭環境の複雑化が懸念される。これらを配慮したときに防犯カメラを使い緊急時の状況の把握や外部侵入者の警戒などが必要となる。そのため防犯カメラ設置を進めていく。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

防犯カメラ4台の設置。(玄関、2F、3F、4Fフロアの廊下)
フルハイビジョンカメラ(機材代、設置費含む) 370,371円
消費税 29,629円
税込み価格 400,000円

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果:防犯カメラを各フロアに一台ずつ設置した
成果:カメラを付けたことでの安全意識の向上と事実確認をすることができるようになった。
社会的な変化:日本虐待防止学会にて若者たちが主体的に意見を出す場の提供、そこから派生した宿直のない施設運営を発表したところ、若者たちに大人が管理することがない影の時間や場所を意図的に作ることで安心感と失敗をできるチャンスと場所を与えている新しい福祉と評価を頂いた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

若者たちの安心安全を守りながらも、四つ葉のクローバーの特徴である「宿直のない非管理的な体制」を維持していくための仕組みとして防犯カメラの設置を行った。懸念していた若者が日常的にカメラを意識して生活に制限に係るということなく、若者たちが安心安全を守るために大人側が考え設置したと理解してくれたことにより信頼関係を強固にするものとなった。

今回のカメラ設置により夜中の緊急対応時の状況理解をするために非常に役に立ち、若者たちの理解や立場を守るものとしても必要なものだと感じた。今後は安心安全を若者たちにさらに意識させるために非常事態が起きた場合の訓練や対応の仕方など知識の提供を毎月の集まりと食事会の場である「真夜中会議」にて組み込み、若者たちが自身の生活を守り構築していく意識の向上に努めていきたい。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし